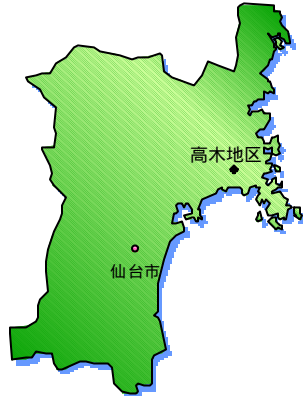


特集：おらほの農地集積

高木地区

地区の概要

事業名	低コスト化水田農業大区画 ほ場整備事業（21世紀型）	組合員数	182人
関係市町村名	石巻市	担い手農家	個別 1戸 組織 4組織
関係土地改良区	石巻市稲井土地改良区	高生産性農業区	136.7ha
工期	平成元～11年度	2ha以上の連坦団地	79.6ha
受益面積	137.7ha	農業生産集積率	58.2% (H11)
総事業費	1,795百万円		



水田における稲・麦・大豆の集団作の取り組み（JA石巻市）

今回は、高木地区における高木・水沼地区農業生産組合の取り組みを中心にJA石巻市農業情報センター営農企画課長の阿部啓一さんにお話を伺いました。

阿部さんはJA石巻市が実施している「アグリコンビナート構想」に基づいた水田農業（転作を含む）と園芸を中心とした高度な地域複合農業を展開しており、石巻管内のほ場整備事業の推進にも積極的に関わり、稲・麦・大豆の集団作の推進、生産組織の設立・運営等の指導助言を行っております。現在JA石巻市では、既にほ場整備事業が完了した真野地区、高木地区、現在継続中の蛇田地区（H6採択）、沢田地区（H10採択）、今年度採択の大瓜東部地区が実施されています。とりわけ高木地区の高木・水沼地区農業生産組合は、昨年全国麦作共励会において農林水産大臣賞を受賞するなど、阿部さんたちJA石巻市の総力を賭けた指導による実績が同時に評価されたものと言えるでしょう。

高木・水沼地区地域農業推進協議会の概要

1. ほ場整備を契機に集団転作の受託組織を設立



生産組合のメンバー(左から千葉さん、中沢夫妻)

石巻市高木・水沼地区では、平成元年に水田農業の生産性向上と生産コスト低減による地域農業の活性化を目的に、石巻地域内では最初となる低コスト化大区画ほ場整備事業が実施されました。

当初は、事前転作として大麦の転作が行われていましたが、面工事の増大に伴い、集団化による輪作体系へ移行することとなりました。このことにより、ほ場整備後の水田農業を円滑に推進するための推進母体として高木・水沼地区地域農業推進協議会を設立。また、集団転作の受託組織となる高木・水沼地区水田農業生産組合（2戸3名）が平成4年2月に設立されました。

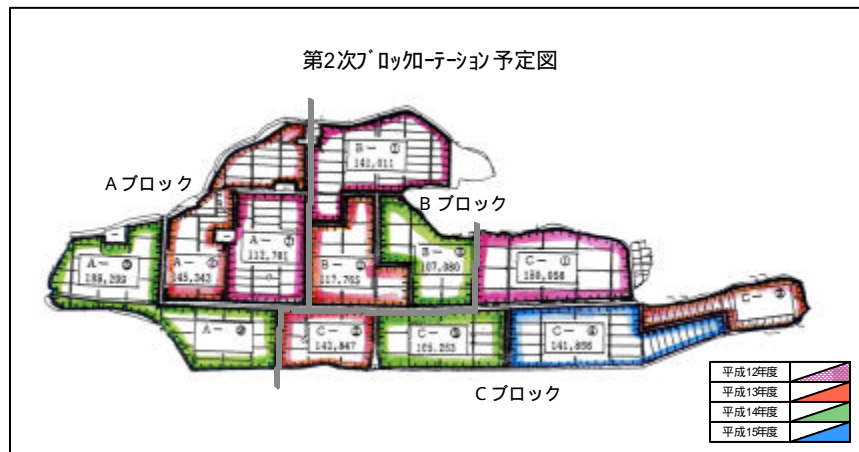
2. 集団転作の取り組み

(1) ほ場整備を契機とした集団転作

高木地区のほ場整備事業による面工事は平成8年度に完了し、高生産性農業区136.7ha全てが30～100a区画の汎用化水田に整備されました。

これを契機に、集落の総意に基づき、水稻・麦類・大豆（2年3作）の輪作体系によるブロックローテーション方式の集団転作を導入。

第1次ブロックローテーションを、平成8～12年までの5ケ年で毎年約27haの集団転作で計画されましたが、平成10年からの緊急生産調整推進対策事業が実施され、石巻市の転作率が約30%となったことに伴い、平成10～11年の転作面積を約40haに変更し4年間で1巡したため、平成12年からは第2次ブロックローテーションを実施しています。



(2) 集団転作の運営方法

まず権利者と推進母体である高木・水沼地区地域農業推進協議会との間で集団転作の受委託に関する複数年の契約が締結され、さらに単年度毎に「集団転作作業受委託契約書」の締結が行われます。この手続きで権利者全員の合意を得た上で、協議会は生産組合に対し集団転作の全作業を再委託する仕組みとなっています。

この際の契約内容は以下のとおりです。

転作補助金及びとも補償金は委託者に帰属する。

委託者は受託者である協議会に10a当たり8,000円の委託料金を支払う。

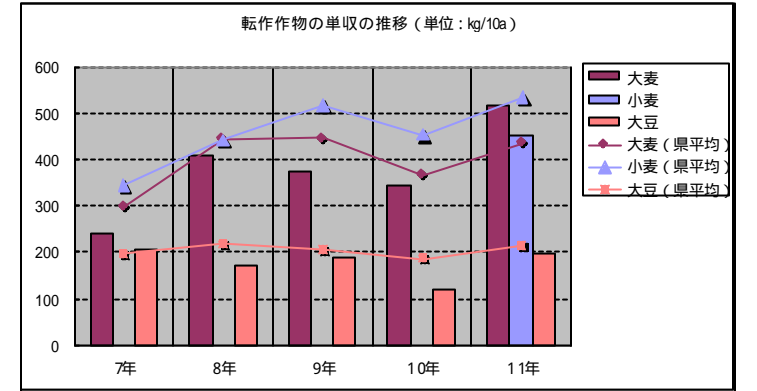
協議会から生産組合に作業を再委託し、10a当たり8,000円の委託作業料金を支払う。

3. 組合の特徴

(1) 機械及び施設の効率化

大規模な集団転作に対応するため、生産組合及びJA石巻市では各種補助事業を導入し、機械及び施設の整備を進めました。

排水対策については、事前転作を実施していた当初は、リターンデッチャーで明渠を設置していましたが、ほ場整備完了後は本暗渠とサブソイラーによる弾丸暗渠による補助暗渠の組み合わせでほ場の排水を図っており、栽培管理作業は、ドリルシーダー、汎用コンバイン、乗用管理機（ハイクリブーム）の導入により、麦類、大豆のいずれについても大型機械による一貫した作業体系を確立。さらに平成9年に建設されたJA石巻市大豆乾燥調製施設で、麦類や大豆の乾燥調製が行われ、なお一層の省力化が図られるようになりました。



(2) 転作の取り組み

麦類

麦作では排水対策が収量・品質を大きく左右するため、ほ場整備により暗渠排水が施工されましたが、更に万全を期し、サブソイラーによる弾丸暗渠の施行とパワーディスクによる20cmの深耕を行って、排水対策の徹底を図っています。

また、大麦の播種期が遅れると、大麦の収量、品質低下だけでなく、後作の大豆の播種期に遅れを招き、結果として組合全体の収入減に結び付く恐れがあるので、適期播種は重要なポイントとなることから、麦プラス大豆の2作体系ではかなり気を遣っています。

大豆

培土は必ず2回実施を基本としています。一般的には、培土は汎用コンバインの作業に支障を来すと言われていたのですが、組合では、「作業ロス以上に増収させる」ことを目標に十分な生育量を確保するように努めています。

高木地区においては、各種栽培管理の徹底にも関わらず、残念ながら収穫期までタデ等の広葉雑草が残り、有効な除草剤が無いため、これを放置して収穫した場合、汚粒の発生要因となり、著しい品質低下を招くこととなります。そのため、収穫直前に、雑草の発生頻度の高いほ場については、手作業による除草を行い、品質の向上を図っています。

(4) 地道な努力が賞賛

組合を設立したことで機械や施設の効率化を図り、徹底した作業管理また手間をかけることを惜しまないこうした取り組みが認められ平成11年度には全国麦作共励会において集団の部で農林水産大臣賞を受賞しました。

《組合の受賞歴》

平成9年度	全国麦作共励会	宮城県大会1位
平成9年度	全国豆類経営改善共励会	日本豆類基金協会長賞
平成11年度	全国麦作共励会	農林水産大臣賞

21世紀農業に向けたJA石巻市の今後の展望

汎用化水田を活用し、担い手組織等への土地利用調整を推進し、ブロックローテーション等の活用により、稲・麦・大豆の2年3作体系を確立し生産物の品質向上、低コスト化を図り収益性の高い水田農業を定着させたい。

また、今後ますます激化する産地間競争に打ち勝つため、計画的生産出荷を図り魅力ある石巻ブランドの確立に努めていきたいと取材に伺ったとき私に熱いまなざしで語って下さいました。

(農地集積指導センター 山崎 記)

問い合わせ先

JA石巻市営農部農業情報センター
〒986-0861 石巻市蛇田字新沼田187
Tel 0225-92-1301 Fax 0225-93-8481

